

今回の早稲田大学の調査委員会の結論は、学位論文審査云々以前のこととして、非常識であり犯罪の容認と同等だと思います。学位審査を含む様々な審査や試験制度は、我々の社会の存続を支える根幹の一つと言っても過言ではありません。たとえ失望を招く結果であっても、皆がその結果を受け入れ社会が成り立っています。今回の早稲田大学の調査委員会の結論のように、博士論文が重大な欠陥を含むことは認めながら、「間違って製本提出された原稿」であるとみなし、、、学位取り消しは無しと判定しては、社会の根幹を揺るがします。全ての職業人はおろか、小学校入学から大学に至るまで受験を経験する幼稚園児から高校生までに、早稲田大学の責任者は一体どのように説明できるのでしょうか。不毛の法廷闘争に引きずり込まれることなく、このような非常識は非常識だと切り捨てることができないものかと感じます。

上村 匡（京大・生命）